

ナス（野菜類の登録農薬も使用できる）

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	疫病	褐色腐敗病	灰色かび病	半身萎凋病	菌核病	黒枯病	苗立枯病	フザリウム立枯病	すすかび病	うどんこ病	褐色斑点病	褐色円星病	褐色紋病
アグロケア水	生物農薬	BM2		1	-		◎						◎	◎			
インプレッションクリア水	生物農薬	BM2		*e	-								◎				
タフパールFL	生物農薬	BM2		*e	-								◎				
サンクリスタル乳	天然物由来	-		1	-										◎		
サンボルドー水	無機	M1		-	-	◎	◎										
ジーファイン水	無機・無機	NC・M1		1	-					◎					◎		
フルピカFL	A P	9		1	4		◎								◎		
サブロール乳	D M I	3		1	5										◎		
スコア顆水	D M I	3		1	3								◎	◎			
トリフミン水	D M I	3		1	5								◎	◎			
アミスター20FL	Q o I	11		1	4								◎	◎	◎		
ストロビーFL	Q o I	11		1	3								◎	◎			
ファンタジスタ顆水	Q o I	11		1	3		◎		◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	
アフエットFL	アミド	7		1	3		◎		◎				◎		◎	◎	
カンタスDF	アミド	7		1	3		◎		◎				◎				
ピクシオDF	アミド	17		1	4		◎		◎								
ポリオキシシンA L溶	抗生物質	19		1	3		◎						◎	◎			
モベントFL	殺ダニ	23		*f	1 1 3									◎	◎		
スミレックス水	ジカルボキシミド	2		1	6		◎		◎								
ロブラール500アクアFL	ジカルボキシミド	2		1	4		◎										
ロブラール水	ジカルボキシミド	2		1	4		◎		◎	◎			◎		◎		
エコビタ液	天然物由来	-		1	-										◎		
トップジンM水	ベンゾイミダゾール	1		1	5		◎		◎	◎							
ベンレート水	ベンゾイミダゾール	1		1 *b	3		◎		◎	◎		◎					
サンヨール乳	有機銅	M1		1	4								◎	◎			
リゾレックス水	有機リン	14		*c	1						®						
リゾレックス粉	有機リン	14		*d	1						®						
オーソサイド水80	他	M4		*a	5						◎						
ケンジャFL	他	7		1	3		◎		◎					◎			
セイビアーFL20	他	12		1	3		◎					◎			◎		
ダコニール1000FL	他	M5		1	4		◎			◎			◎	◎			
ベルコートFL	他	M7		1	3		◎			◎			◎	◎			◎
パルミノFL	他	M10		1	3								◎	◎			
パレード20FL	他	7		1	3		◎		◎				◎	◎			
ピシロックFL	他	U17		1	3		◎										
モレスタン水	他	M10		1	3										◎		
ライメイFL	他	21		1	3		◎										
ランマンFL	他	21		1	4		◎										

ナ
ス

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	疫病	褐色腐敗病	灰色かび病	半身萎凋病	菌核病	黒枯病	苗木立枯病	フザリウム立枯病	すすかび病	うどんこ病	褐色斑点病	褐色円星病	褐色紋病	
シグナムWDG	Q○I・アミド	11・7		1	3			◎		◎				◎	◎	◎			
アミスターオブティFL	Q○I・他	11・M5		1	4		◎	◎			◎			◎	◎				
ピカットFL	アミド・AP	7・9		1	3			◎						◎	◎				
パンチョTF顆水	アミド・DMI	U6・3		1	2										◎				
ジャストミート顆水	アミド・他	17・12		1	3			◎											
フォリオゴールドFL	アミド・他	4・M5		1	3		◎							◎	◎				
ベジセイバーFL	アミド・他	7・M5		1	3			◎		◎	◎			◎	◎	◎	◎		
スミブレンド水	ベンゾイミダゾール・ジカルボキシミド	10・2		1	5			◎		◎									
ゲッター水	ベンゾイミダゾール・ベンゾイミダゾール	10・1		1	5			◎		◎	◎								
ニマイバー水	ベンゾイミダゾール・ベンゾイミダゾール	10・1		1	3			◎		◎	◎								
ショウチノスケFL	他・AP	U13・9		1	2			◎							◎				
ホライズンDF	他・Q○I	27・11		1	3			◎											
ダイヤモンド水	他・アミド	M7・17		1	3			◎						◎					
ダイアメリットDF	他・抗生物質	M7・19		1	3			◎		◎	◎			◎	◎				
ポリベリン水	他・抗生物質	M7・19		1	3			◎							◎	◎			
フェスティバルC水	他・無機	40・M1		7	3		◎												
カーニバル水	他・他	40・M5		7	3		◎	◎						◎	◎				
ドーシャスFL	他・他	21・M5		1	4		◎				◎								
ブリザード水	他・他	27・M5		1	3									◎	◎				
プロポーズ顆水	他・他	40・M5		1	4		◎							◎					
バトファイター顆水	他・他	27・40		1	3		◎												

*a: 播種後～2～3葉期まで *b: 定植後～収穫14日前 *c: 播種時 *d: 播種前

*e: 発病前～発病初期まで *f: 育苗期後半～定植当日

◎: リゾクトニア菌による病害

ナス

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ メ ム シ 類	コ ナ カ イ ガ ラ ム シ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	オ オ タ バ コ ガ シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ シ 類	ネ キ リ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	テ ン ト ウ ム シ ダ マ シ 類	ケ ラ 類	ハ ダ ニ 類	チ ヤ ノ ホ コ リ ダ ニ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ
スピノエース顆水	スピノシ	5		1	2			◎		◎										
除虫菊乳3*	ピレスロイド*	3A		1	5	◎		◎												
コロマイト乳	マクロイト*	6		1	2	◎				◎								◎	◎	
アタックオイル	天然物由来			-	-														◎	
スプレーオイル	天然物由来			-	-														◎	
サンクリスタル乳	天然物由来	-		1	-	◎	◎												◎	◎
トモノールS	天然物由来			-	-														◎	
ラビサンスプレー	天然物由来			-	-														◎	
アタブロン乳	I GR	15		1	3		ナ			◎	◎									
アブロード水	I GR	16		1	3	タ				◎	◎								幼	
カウンター乳	I GR	15		1	4	◎	◎			◎	◎	◎								
カスケード乳	I GR	15		1	4		ナ	◎		マ	◎								◎	
トリガード液	I GR	17		1	3					マ										
ノーモルトFL	I GR	15		1	2	◎							◎							
ファルコンFL	I GR	18		1	2					◎			◎							
マッチ乳	I GR	15		1	4					◎										
マトリックFL	I GR	18		1	3					◎		◎								
バイデートL粒	カーバメート	1A	劇	*i	1	◎	ナ													
ネマキック粒	殺線虫	1B		*e	1															◎
ネマトリンエース粒	殺線虫	1B		*e	1		オ	ナ											◎	◎
カネマイトFL	殺ダニ	20B		1	1														◎	◎
スターマイトFL	殺ダニ	25A		1	1														◎	◎
ダニオーテFL	殺ダニ	33		1	2														◎	
ダニコングFL	殺ダニ	25B		1	1														◎	
ダニサラバFL	殺ダニ	25A		1	2														◎	
ダニトロンFL	殺ダニ	21A		1	1														◎	
ニッソラン水	殺ダニ	10A		1	2														◎	
パロックFL	殺ダニ	10B		1	1														◎	
ピラニカEW	殺ダニ	21A	劇	1	1														◎	◎
マイトコーネFL	殺ダニ	20D		1	1														◎	
モベントFL	殺ダニ	23		*L	1	灌	灌	灌											灌	灌
フェニックス顆水	ジアミド*	28		1	3	◎	◎	◎			◎		◎						◎	◎
ブリロソソ粒	ジアミド*	28		*m	1	◎	◎	◎		◎										
プレバソンFL 5	ジアミド*	28		*L	1					灌			灌	灌						
プレバソン粒	ジアミド*	28		*m	1					◎	◎		◎							
ベリマークSC	ジアミド*	28		*L	1	灌	灌	灌		灌					灌					
ヨーバルFL	ジアミド*	28		*L	1	灌	灌			灌	灌		灌							
ディアナSC	スピノシ	5		1	2	◎	◎	◎		◎	◎	◎								
エコビタ液	天然物由来	-		1	-	◎	◎												◎	

ナ
ス

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	ア	コ	カ	コ	ハ	オ	ヨ	ネ	コ	テ	ケ	ハ	チ	ネ
						ブ	ナ	ザ	ナ	モ	オ	ト	キ	ガ	ン	ト	ダ	ダ	ノ
アクタラ粒5	ネニコチノイト*	4A	*b *d	1	1	◎	◎	ミ		マ				◎					
アクタラ顆溶	ネニコチノイト*	4A	1	3	3	◎	◎	ナ		マ					◎				
アドマイヤー1粒	ネニコチノイト*	4A	*d *b	1	1	◎		◎											
アドマイヤー顆水	ネニコチノイト*	4A	劇	1	2	◎	◎	◎											
アドマイヤー水	ネニコチノイト*	4A	劇	1	2	◎	◎	◎											
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	ネニコチノイト*	4A	1	2	2	◎	◎	◎	◎										
アルバリン粒 スタークル粒	ネニコチノイト*	4A	*f *b *i	2 1	2 1	◎ ◎	◎ ◎	◎ ◎		◎ ◎									
ダントツ溶	ネニコチノイト*	4A	1	3	3	◎	◎	ナ	◎	◎					◎				
ダントツ粒	ネニコチノイト*	4A	*n *b *d	3 1	3 1	◎ ◎	◎ ◎			マ									
バリアード顆水	ネニコチノイト*	4A	劇	1	3	◎	◎												
ベストガード溶	ネニコチノイト*	4A	1	3	3	◎	◎	ナ	◎										
ベストガード粒	ネニコチノイト*	4A	1 *b *i *k *d	3 1	3 1	◎ ◎	◎ ◎	ナ											
モスピラン顆溶	ネニコチノイト*	4A	劇	1	3	◎	◎	◎	◎						◎				
モスピラン粒	ネニコチノイト*	4A	*b *g	1	1	◎	◎	ナ						◎					
アーデント水	ヒレスロイト*	3A	1	4	4	◎	◎	カ				◎						◎	
アグロスリン乳	ヒレスロイト*	3A	劇	1	5	◎	オ	ナ											
アディオソ乳	ヒレスロイト*	3A	1	3	3	◎	オ	◎							◎				
ガードベイトA粒	ヒレスロイト*	3A	*p	3	3							◎							
テルスターFL	ヒレスロイト*	3A	劇	1	3	◎												◎	
トレボン乳	ヒレスロイト*	3A	1	3	3	◎	◎												
トレボンMC	ヒレスロイト*	3A	1	3	3	◎													
マブリック水20	ヒレスロイト*	3A	劇	1	2	◎	オ											◎	
ロディー乳	ヒレスロイト*	3A	劇	1	5	◎	オ											◎	
アグリメック乳	マクロライト*	6	劇	1	3	◎	◎											◎	
アニキ乳	マクロライト*	6	1	3	3	◎			◎	◎	◎							◎	
アフファーム乳	マクロライト*	6	1	2	2	◎	◎		◎	◎	◎							◎	

ナス

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ア ブ ラ ム シ	コ ナ ジ ラ ウ シ	カ ザ メ ム シ	コ ナ カ イ ガ ラ ム シ	ハ モ グ リ バ エ	オ オ タ バ コ ガ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト	ネ キ リ ム シ	コ ガ ネ ム シ	テ ン ト ウ ム シ	ゲ ダ ニ	ハ ダ ニ	チ ヤ ノ ホ コ リ ダ	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ
オルトラン粒	有機リン	1B	*b	1	1	◎	◎													
カルホス粉	有機リン	1B	*c	2	2									◎						
サイアノックス乳	有機リン	1B		1	2												テ			
ジェイエース粒	有機リン	1B	*b	1	1	◎	◎													
スプラサイド水	有機リン	1B	劇	14	3		◎	ナ												
スミチオン乳	有機リン	1B		1	5	◎										◎				
ダイアジノン乳40	有機リン	1B	劇	*Q	3	露										ろ		露		
ダイアジノン粒5	有機リン	1B		*c	2									◎			◎			
				*h	3										◎					
マラソン乳	有機リン	1B		1	6	◎												◎		
アクセルFL	他	22B		1	3					◎	◎						ニ			
ウララD F	他	29		1	3	◎	◎	カ												
グレースシア乳	他	30		1	2	◎	◎		◎	◎	◎							◎	◎	
コテツFL	他	13	劇	1	4			ミ		◎	◎	◎				◎		◎	◎	
コルト顆水	他	9B		1	3	◎	◎		ス											
チェス顆水	他	9B		1	3	◎	◎													
トランスフォームFL	他	4C		1	2	◎	◎													
トルネードエースD F	他	22A		1	2					◎	◎				◎					
パルミノFL	他	UN		1	3		◎												◎	
ファインセーブFL	他	34	劇	1	3		◎	バ												
ブレオFL	他	UN		1	4		◎		◎	◎	◎									
モレスタン水	他	UN		1	3															◎
アブロードエースFL	殺ガニ・IGR	21A・ 16		1	3		◎													◎
ダブルフェースFL	殺ガニ・殺ガニ	25B・ 21A		1	1														◎	◎
ミネクトデュオ粒	ジアミト・ネコチノイト	28・ 4A		*j *d	1	◎	◎	◎		◎			◎							

*:商品により適用病害虫等が異なる。

*b:定植時 *c:播種時又は定植時 *d:育苗期後半 *e:定植前 *f:生育期(但し収穫前日まで)

*g:定植前日～定植当日 *h:収穫開始3日前まで *i:育苗期 *j:鉢上げ時～育苗期後半

*k:播種時又は鉢上げ時 *l:育苗期後半～定植当日 *m:育苗期後半～定植時

*n:定植後(但し収穫前日まで) *p:生育初期 *q:収穫開始3日前まで

オ:オンシツコナジラミ カ:ミカンキイロアザミウマ ス:カスミカメムシ類

タ:タバココナジラミ類幼虫及びオンシツコナジラミ幼虫 テ:テントウムシ類

ナ:ミナミキイロアザミウマ ニ:ニジュウヤホシテントウ バ:タバココナジラミ類

マ:マメハモグリバエ ミ:ミカンキイロアザミウマ及びミナミキイロアザミウマ

ろ:露地栽培でテントウムシ類で登録

灌:灌漑処理で登録

幼:幼虫

露:露地栽培

苗:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットに散布

ナ
ス

ナス (野菜類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生消長		1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病害	露地												
	灰色かび病												
	うどんこ病												
虫害	アブラムシ類												
	ハダニ類												
	チャノホコリダニ												

作型 — ; 栽培期 — ; 収穫期
 病害虫発生消長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
疫病	生育期	1. 高畦にして畑の排水をはかる。 2. マルチ栽培をする。 3. 発生を見たら次の薬剤を散布する。 サンボルドー(水) 300~600倍	
褐色腐敗病	生育期	1. 高畦にして畑の排水をはかる。 2. マルチ栽培をする。 3. 発生を見たら初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 ピシロックフロアブル 1000倍 ホライズンドライフフロアブル 2500倍 ランマンフロアブル 2000倍	褐色腐敗病は疫病の一種であり、6月中旬~9月下旬に高温多雨の年に発生が多い。
灰色かび病	生育期	1. ハウス内では過湿に注意する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ゲッター水和剤● 1000~1500倍 スミレックス水和剤● 1000~2000倍 セイビアーフロアブル20 1000~1500倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 フルピカフロアブル● 2000~3000倍 ベルクートフロアブル 2000倍	施設栽培で発生が多いが、低温多湿が続くと露地でも発生する。 果実の発病は咲き終わった花卉から始まるので、多発期には花卉を摘み取ってやると良い。 ●耐性菌を生じるおそれがあるので、連用しない。

ナス（野菜類の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
半身萎凋病	播種前	1. 床土消毒する（土壌消毒の項参照）。 2. トルバム・ビガー、トレロなどの台木を用いて接木栽培を行う。	病原菌は多犯性でイチゴ、ウド、オクラ、フキ、キク等を侵す。 トルバム・ビガーは低温期の生育が遅いので注意する。 接木栽培とマルチ畦内消毒を併用すると効果が高い。
	定植前	・ 本畑は消毒を行う（土壌消毒の項参照）。	
	生育期	・ 次の薬剤を土壌灌注する。 ベンレート水和剤 500倍 200～300ml/株 1000倍 400～600ml/株	
黒枯病	生育期	1. マルチ栽培する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ゲッター水和剤 1500倍 ダコニール1000 (FL) 1000倍 ロブラール水和剤 1000～1500倍	黒枯病は施設で発生が多いが、多湿時には露地でも発生する。
苗立枯病	播種前および播種時	1. 床土を消毒する（土壌消毒の項参照）。 2. 播種時に次の薬剤を灌注する。 リゾレックス水和剤# 500倍 3ℓ/m ²	病原菌はリゾクトニア菌、ピシウム菌、フザリウム菌による。 #リゾクトニア菌にのみ有効である。
	発芽後	・ 発病したらすぐ抜きとる。その跡や周りに次の薬剤を灌注する。 オーソサイド水和剤80 800倍 2ℓ/m ²	
すすかび病	生育期	・ 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 ダコニール1000 (FL) 1000倍 トリフミン水和剤● 3000倍 ベルコートフロアブル 2000倍 ロブラール水和剤● 1000倍	施設で発生が多いが、露地でも梅雨期や秋雨期に多発することがある。 ●耐性菌生じるおそれがあるので連用しない。
うどんこ病	生育期	・ 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 サプロール乳剤● 1000～2000倍 トリフミン水和剤● 3000～5000倍 パンチョTF顆粒水和剤● 2000倍 ベルコートフロアブル 2000倍	●耐性菌を生じるおそれがあるのでDMI剤は連用しない。

ナス (野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
青枯病	播種前	1. 床土消毒をする。(土壌消毒の項参照)。 2. 接木栽培を行う。	トマトの青枯病の項参照
	定植前	・本畑は消毒を行う。(土壌消毒の項参照)。	
	生育期	1. 高畝栽培する。 2. 発病株は早期に処分する。	
半枯病	定植前	1. 発生圃場ではナス以外の作物を栽培する。 2. 接木栽培を行う。	病原菌はナスのみを侵し、土壌中に長期間生存する。 発生がひどい場合には耐病VFを台木として接木栽培する。
	生育期	・発病株は早期に処分する。	
褐色斑点病	生育期	1. 被害茎葉・果実を除去する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフェットフロアブル 2000倍 ポリベリン水和剤 1000倍	リゾクトニア菌により葉腐れ、落葉、果実腐敗を生ずる。 発生は突発的で、気象条件に大きく左右される。7～9月降雨が連続すると蔓延が速い。
アブラムシ類(モモアカアブラムシ・ワタアブラムシなど)	定植時	・次の薬剤のいずれかを植穴に施用し、土とよく混ぜる。 アクタラ粒剤 1 g/株 アドマイヤー1粒剤 1～2 g/株 オルトラン粒剤 1～2 g/株	
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF 2000～4000倍 ダントツ水溶剤 2000～4000倍 マラソン乳剤 2000～3000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000～4000倍	
コナジラミ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アプロードエースフロアブル 1000～2000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2000～3000倍 スタークル顆粒水溶剤 2000～3000倍 ベストガード水溶剤 1000～2000倍	

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アザミウマ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤 2000倍 スピノエース顆粒水和剤 2500~5000倍	
ミナミキイロアザミウマ	定植時	・次の薬剤のいずれかを施用する。 ベストガード粒剤 (植穴土壌混和) 1~2g/株 モスピラン粒剤 (植穴土壌混和) 1g/株	
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤# 2000倍 モスピラン顆粒水溶剤# 2000~4000倍	#アザミウマ類での登録
トマトハモグリバエ	生育期	・発生を見たら早めに次の薬剤のいずれかを散布する。 プレオフロアブル# 1000倍 プレバゾンフロアブル5# 1000~2000倍	#ハモグリバエ類での登録
オオタバコガ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤 2000倍 エスマルクDF* 1000倍 コテツフロアブル 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000~4000倍 プレオフロアブル 1000倍 プレバゾンフロアブル5 2000倍	*野菜類での登録
ネキリムシ類	は種時又は定植時	・次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 カルホス粉剤 6kg/10a ダイアジノン粒剤5 4~6kg/10a	発生量は多くない。被害株の株元の土を調べ、幼虫を捕殺する。
	生育初期	・次の薬剤を株元散布する。 ガードベイトA(粒) 3kg/10a	
テントウムシ類(ニジュウヤホシテントウ・オオニジュウヤホシテントウ)	生育期	・発生が多いときは次の薬剤のいずれかを散布する。 コテツフロアブル 2000倍 サイアノックス乳剤# 1000倍 スミチオン乳剤 1000~2000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000~4000倍	ジャガイモを加害後、ナス、トマト、ゴボウなどに移り被害を与える。 #テントウムシダマシでの登録

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハダニ類	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 コロマイト乳剤 1500倍 スターマイトフロアブル 2000倍 ダニサラバフロアブル 1000倍 	乾燥が続くと発生が多い。多発すると防除がむずかしい。初期のうちに、むらのないよう に防除する。
チャノホコリダニ	発生初期	<ul style="list-style-type: none"> 被害症状が見られたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 アプロードエースフロアブル 1000倍 コテツフロアブル 2000倍 モレスタン水和剤◇ 2000倍 	夏期、高温乾燥条件で多発する。 ◇モレスタン水和剤は 花卉に薬斑が出るが、 着果などにほとんど影 響はない。
ネコブセンチュウ	播種前	・床土は土壤消毒する(土壤消毒の項参照)。	△定植前のネマトリンエース粒剤の施用は、オンシツコナジラミ、ミナミキイロアザミウマ、ハダニ類にも登録がある。
	定植前	1. 作付予定地で前作物に寄生があったところでは土壤消毒する(土壤消毒の項参照)。 2. 次の薬剤のいずれかを全面土壤混和する。 ネマキック粒剤 15～20kg/10 a ネマトリンエース粒剤△ 15～20kg/10 a	

ナ

ス